

## 令和3年度 専攻科学生選抜学力試験問題用紙 専門科目 ②基礎会計学

I. 次頁の決算整理前残高試算表をもとに各設問の仕訳を示しなさい。勘定科目については適切なものを推測して用いること。なお、会計期間は2019年1月1日から2019年12月31日までの1年間である。

- (1) 株式配当金領収証¥8,000を受け取っていたが、未処理であった。
- (2) 仮受金¥2,000は得意先からの売掛金の回収であることが判明した。
- (3) 掛購入していた商品¥50,000を返品していたが、未処理であった。
- (4) 受取手形および売掛金の期末残高に対し実績率法により3%の貸倒れを見積もる。貸倒引当金の設定は差額補充法によること。
- (5) 期末商品棚卸高は¥250,000である。売上原価は「仕入」の行で計算すること。
- (6) 消耗品の期末未消費高は¥6,500である。
- (7) 備品について定額法により減価償却を行う。なお、備品のうち¥100,000は当期の9月1日に購入したものである。耐用年数は旧備品が8年、新備品が5年であり、残存価額はいずれも取得原価の10%である。
- (8) 支払家賃は毎年2月1日と8月1日に向こう6ヶ月分を前払いしている。
- (9) 支払保険料は毎年同額を4月1日に向こう1年分を前払いしている。
- (10) 借入金は2019年4月1日に借入期間1年、利率4%で借り入れたもので、利息は3月末日と9月末日に各半年分を支払うことになっている。当期分の利息は月割計算による。

令和3年度 専攻科学生選抜学力試験問題用紙 専門科目 ②基礎会計学

残高試算表

2019年12月31日 (単位:円)

借方	勘定科目	貸方
427,500	現 金	
367,000	当 座 預 金	
200,500	受 取 手 形	
167,500	売 掛 金	
79,000	有 働 証 券	
245,000	繰 越 商 品	
300,000	備 品	
	支 払 手 形	165,500
	買 掛 金	130,500
	借 入 金	250,000
	仮 受 金	2,000
	貸 倒 引 当 金	3,000
	備品減価償却累計額	90,000
	資 本 金	1,300,000
	売 上	3,540,500
	受 取 配 当 金	3,000
2,600,000	仕 入	
390,000	給 料	
18,000	消 耗 品 費	
520,000	支 払 家 賃	
165,000	支 払 保 険 料	
5,000	支 払 利 息	
5,484,500		5,484,500

令和3年度 専攻科学生選抜学力試験問題用紙 専門科目 ②基礎会計学

II. 各設問の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は下記の中から適切なものを選択すること。

勘定科目：

現 金	当 座 預 金	受 取 手 形	売 掛 金
売買目的有価証券	不 渡 手 形	建 物	建 設 仮 勘 定
備 品	備品減価償却累計額	支 払 手 形	買 掛 金
減 価 償 却 費	修 繕 費	仕 入	売 上 値 引
売 上 割 戻	売 上 割 引	固定資産売却損	固定資産廃棄損
固定資産除却損	売 上	仕 入 値 引	仕 入 割 戻
仕 入 割 引	固定資産売却益	固定資産除却益	有 価 証 券 利 息

- (1) 建物の改修工事を行い、工事代金¥1,000,000について小切手を振り出して支払った。なお、工事代金のうち¥800,000は耐用年数延長のための支出であり、残りは定期的修繕のための支出である。
- (2) 勿来商店より売掛金の決済のために受け取った当店宛の約束手形¥350,000が満期日に支払拒絶された。当店は、拒絶証書の作成料¥2,500を現金で支払い、手形代金とともに支払い請求した。
- (3) 当店は、2020年4月15日、買掛金を小切手で支払った。なお、この買掛金は2020年3月31日に購入した商品¥20,000に対する債務であり、購入日より30日後に支払う契約であるが、購入日から20日以内に支払った場合には、掛代金より1.5%を割り引く条件がついていた。
- (4) 2020年6月12日、売買目的で湯本商事株式会社発行の社債（額面¥1,500,000）を額面¥100につき¥97で買い入れ、代金は端数利息とともに小切手を振り出して支払った。同社債の利息は7.3%であり、利払日は3月と9月の各末日である。
- (5) 取得原価¥600,000、期首減価償却累計額¥360,000に備品を期首から半年が経過した時点において¥50,000で下取りに出し、新しい備品¥700,000を購入した。新備品の購入価額と旧備品の下取り価額との差額は現金で支払った。なお、旧備品については、償却率25%の定率法によって算定した半年分の減価償却費を下取り時において計上すること。

## 令和3年度 専攻科学生選抜学力試験問題用紙 専門科目 ②基礎会計学

III. いわき工場では、標準原価計算制度を採用し、パーシャル・プランによって記帳している。下記の資料1から4にもとづき差異分析を行い、解答欄を埋めなさい。ただし、差異の欄については、不利差異の場合には△、有利差異の場合には+と記入すること。

### 資料

#### 1. 標準原価カード

直接材料費	20 円/kg	25 kg	=	500 円
直接労務費	250 円/時	2 時間	=	500 円
製造間接費	300 円/時	2 時間	=	<u>600 円</u>
製品 1 個あたりの標準製造原価				<u>1,600 円</u>

#### 2. 製造間接費変動予算

変動費率 140 円/時 固定費（月間）35,200 円

#### 3. 当月の生産実績（単位：個）

月初仕掛品	20 (1/2)	月末仕掛品	30 (2/3)
当月着手	<u>110</u>	完成品	100
合計	<u>130</u>		

なお、材料はすべて工程の視点で投入している。また、分数は加工進捗度を示している。

#### 4. 当月実際発生額

直接材料費  $22 \text{ 円/kg} \times 2,200 \text{ kg} = 48,400 \text{ 円}$   
直接労務費  $230 \text{ 円/時} \times 210 \text{ 時間} = 48,300 \text{ 円}$   
製造間接費 68,000 円

令和3年度 専攻科学生選抜学力試験問題用紙 専門科目 ②基礎会計学

IV. 下記の資料をもとに各設問に答えなさい。

資料

当期の業績

売上高	@5,000 円	× 1,000 個
原価		
変動費 製造原価	@1,800 円	× 1,000 個
販売費	@ 700 円	× 1,000 個
固定費 製造原価		1,600,000 円
販売費・一般管理費		400,000 円

- (1) 損益分岐点における販売数量と売上高を求めなさい。
- (2) 当期の安全余裕率を求めなさい。
- (3) 販売単価、製品単価当たり変動費、固定費は次期も当期業績どおり予定される。
  - (a) 次期において営業利益 300,000 円を達成するために必要な販売数量を求めなさい。
  - (b) 売上利益率 25% を達成するために必要な販売数量を求めなさい。

V. 資産および負債は流動項目と固定項目に分類される。まず、分類の判断に用いられる基準について説明し、次に、項目の配列方法について述べなさい。